

林 重雄¹：福井県敦賀市にヒメウミガメの漂着Shigeo HAYASHI¹：Sea-turtle of *Lepidochelys olivacea* stranded on the beach of Tsuruga-City, Fukui Prefecture, Japan

日本近海に生息するウミガメ類には、アカウミガメ、アオウミガメ、オサガメ、タイマイ、ヒメウミガメの5種が知られており（石井 1999）、福井県でもこれら5種の漂着が確認されている（百崎ほか 2011）。このうちヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* は、爬虫綱カメ目ウミガメ科ヒメウミガメ属に分類されるカメである。本種は、太平洋・インド洋・大西洋の熱帯および亜熱帯海域に分布し、産卵地ではない日本に出現する目的やその回遊経路についての詳細は分かっていない。日本での漂着報告は稀で（中村・上野 1963；富田 2007）、福井県では1997年（百崎ほか 2011）と2011年（林 2012）の2例にすぎない。今回本州中部の福井県の海岸でヒメウミガメの漂着を確認したのでここに報告する。

漂着記録

筆者は2017年3月11日、福井県敦賀市赤崎海岸（図1）で漂着物の調査中にヒメウミガメ（図2・3）を確認した。赤崎海岸は敦賀市にあるJR敦賀駅から北へ5kmほどに位置している。敦賀湾東側の海岸は前-中期ジュラ紀の付加コンプレックスの岩石海岸とポケットビーチからなる砂浜海岸で、湾口から10kmほど南にあるこの一帯は湾奥にあり、冬季に北西の季節風が強まると漂着物が寄り集まりやすい場所でもある（林 重雄 ブログ。Beachcomber's Logbook）。

発見時（午前11時）の天候は晴れ、気温9.4℃、北北東の風、風速6 m/sであった（気象庁ホームページ）。ヒメウミガメは赤崎海岸の暴浪汀線上に、漂着ゴミ類と一緒に漂着していた。ヒメウミガメは一部ミイラ化していたが、気温の上昇などにより腐敗も進み腐敗臭も確認できた。計測はWyneken（2001）に従い現地でデジタルノギスで計測した。ヒメウミガメの直甲長は152.7mm、直甲幅は140mm、直腹甲長は128mm、頭長は55.3mm、頭幅は33.7mmであった。腹甲面の垂縁甲板には *Lepidochelys* 属でのみ見られるラスケス孔の開口（Wyneken 2001）が見られた（図4）。ラスケス孔からの分泌物は、同一種内のコミュニケーションや抗菌性機能を持つとも言われるが詳細は不明である（Wyneken 2001；亀崎 2012）。また表面へのフジツボ・エボシガイ類の付着は、肉眼では確認できなかった。

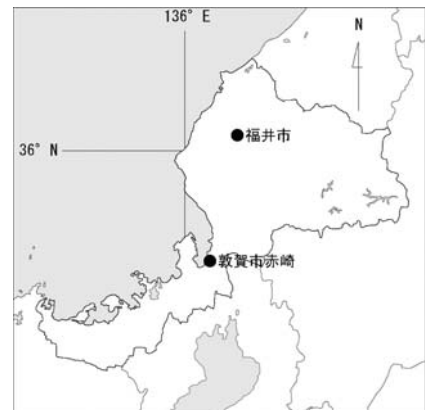
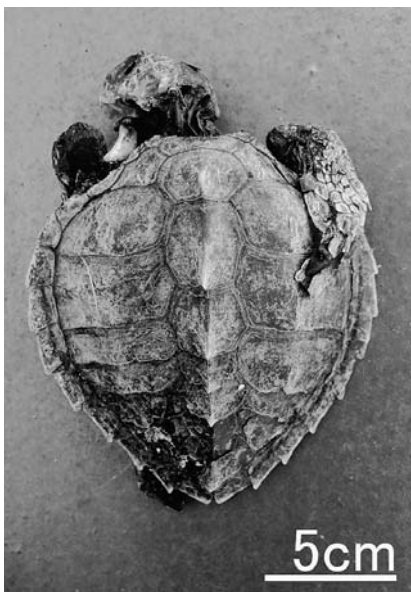


図1 福井県敦賀市赤崎海岸の位置

図2 赤崎海岸に漂着したヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* 背面図3 赤崎海岸に漂着したヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* 腹面図4 赤崎海岸に漂着したヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* のラスケス孔○印

考察

赤崎海岸は冬季には定期的に調査しており、2017年2月4日の調査時にはヒメウミガメは確認していないので、それ以降の暴浪によって打ち上げられたものと推測できた。該当期間には、敦賀で北北西の平均風速が8m以上あった日が二日連続で確認され（気象庁ホームページ）、波浪注意報の発令も多かった。該当期間の敦賀周辺の海面水温は11~12°Cであった（第八管区海上保安本部 海洋情報部ホームページ）。また表面を精査したが、腐敗による下顎脱落が認められたものの死因に結びつく外傷は見当たらず、海水温低下による衰弱や漂着後の体温低下が死因の可能性として考えられる。

ヒメウミガメの孵化幼体甲長平均は43.2mmで（松沢 2012）、成熟甲長の平均は67cm程度（石原 2012）とされる。ヒメウミガメの未成熟期の生活史は不明な点が多いが、ふ化直後には外洋に分散し、外洋で生活するとされる（石原 2012）。これまでに福井県で漂着が確認されたヒメウミガメはどちらも甲長が57cm（百崎ほか 2011）、58cm（林 2012）で成熟個体のものであったが、今回確認したヒメウミガメは152.7mmで未成熟個体といえる。近年、未成熟個体の漂着が沖縄県から報告されているが、日本海側での150mm台の漂着は少なく、1968年1月に新潟県柏崎に漂着した例（木野・河津 2014）に次ぐ2例目のものである。本来外洋で生活する未成熟個体の日本海流入は、対馬暖流源流部にあたる東シナ海にまで未成熟個体の生活域があることを示唆している。なお今回漂着したヒメウミガメは福井市自然史博物館に収蔵された。

福井県下ではこれまでに2件のヒメウミガメ漂着が報告されている。今後も継続的な調査の際に、希少種とされるヒメウミガメだけではなくウミガメ全般の漂着に注目することで、ウミガメの生態や地理分布についての新たな知見が得られるであろう。

謝辞：本稿をまとめるにあたり北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。福井市の小寺仁美氏には、博物館に収蔵する際に協力いただいた。二名の査読者には論文の改善に役立つご指摘をいただいた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- 第八管区海上保安本部 海洋情報部ホームページ. (http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN8/sokuho/sokuho_index.html) (2017年3月15日閲覧)
- 林 重雄. 2012. 福井県美浜町に希少種ウミガメの漂着. 漂着物学会誌 10: 27-28.
- 林 重雄ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>) (2017年3月15日閲覧)
- 石原 孝. 2012. 第3章生活史. In 亀崎直樹 (編者). ウミガメの自然誌. pp.57-84. 東京大学出版会, 東京.
- 石井 忠. 1999. 新編漂着物事典, 380pp. 海鳥社, 福岡.
- 亀崎直樹. 2012. 第1章進化. In 亀崎直樹 (編者). ウミガメの自然誌. pp.11-34. 東京大学出版会, 東京.
- 木野将克・河津 勲. 2014. 沖縄県屋我地島に漂着したヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* の幼体. うみがめニュースレター 100: 7-11.
- 気象庁ホームページ. (<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>) (2017年3月15日閲覧)
- 松沢慶将. 2012. 第4章発生. In 亀崎直樹 (編者). ウミガメの自然誌. pp.85-113. 東京大学出版会, 東京.
- 百崎孝男・水野由紀子・稲木明浩・鈴木隆史. 2011. 福井県におけるウミガメ類の記録. 福井市自然史博物館研究報告 58: 41-46.
- 中村健児・上野俊一. 1963. 原色日本両生・爬虫類図鑑. 214pp. 保育社, 大阪.
- 富田京一. 2007. 日本のカメ・トカゲ・ヘビ. 180pp. 山と溪谷社, 東京.
- Wyneken, J. 2001. The Anatomy of Sea Turtles. 172pp. U.S. Department of Commerce, Washington, D.C.

(Received Mar. 25, 2017 ; accepted May 15, 2017)

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan